

スポーツタレントの発掘・育成事業に関する一考察

A study on a project of finding and training athletes

1K03A005-7

荒 卓也

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 吉永武史先生

＜序章＞本研究の動機・目的・方法

今日、スポーツは私たちの生活に広く浸透し、野球界にハンカチ王子フィーバーを巻き起こした斉藤祐樹をはじめ、アスリートの一挙手一投足が私たちを魅了している。一方で、もはや「スポーツタレント」とも言うべきアスリートが偶然の産物であるという捉え方もできる。なぜなら、国際大会などで活躍したアスリートは、マスコミによってクローズアップされ、「スポーツタレント」へと仕立て上げられているからだ。現在のスポーツ人気を牽引していると考えられる「スポーツタレント」が現れなかったとき、スポーツ人気は衰退し、低迷してしまうのではないだろうか。

そこで、現在、福岡県で行われている「福岡県タレント発掘事業」を取り上げ、本事業のプログラムを分析することで、「スポーツタレント」を育てることは可能なのか、本事業の有用性を検証したい。以上を踏まえて、本研究では、本事業の有用性と課題を考察すること、そして、海外におけるアスリート発掘・育成プロジェクトの事例を取り上げ、アスリートを発掘・育成するというプロジェクト自体が抱える課題とその発展性を考察することの2点を目的とする。

尚、本研究は、主にアスリートの育成に関する先行研究や文献講読によって行う。また、それに加えて、本事業の実行委員会の方々へのインタビューを通して得られた情報も付け加えている。

＜第1章＞福岡県タレント発掘事業の概要

本事業は、低迷する日本の競技スポーツにおいて、スポーツ振興基本計画に沿って発足したものである。また、本事業には福岡県の他、日本オリンピック委員会や国立スポーツ科学センター、そして各競技団体など多くの組織の連携の下、スポーツ科学に基づいた一環指導プログラムが実施されていることがわかった。

＜第2章＞福岡県タレント発掘事業におけるプログラム分析とその有用性の検証

本事業の具体的なプログラムを分析することで、本

プログラムが、技術面だけでなく、知的・精神的面でのサポートや、保護者を巻き込んだ保護者プログラムなど、多様で包括的な育成プログラムに本事業の特徴が見られた。これは、子どもがスポーツに取り組む環境づくりという点で、また、発育・発達に合わせたプログラムを提供できるという点で有用であり、競技スポーツだけでなく、スポーツ振興政策にも応用できると考えられる。

＜第3章＞海外におけるアスリートの発掘・育成事業

アスリートの発掘・育成という試みは、諸外国においても行われてきた。本章では、特に中国とスウェーデンでの事例を取り上げ、プロジェクトにおける形態・生理学的プログラムの是非を検討するとともに、スポーツによる地域振興政策について考察した。そして、現在、日本が推進している多種目スポーツによるスポーツ振興政策とは異なった、地域の実情に即したスポーツ振興政策が必要であるという考えに至った。

＜結章＞

本事業は、競技スポーツの向上を図るものであり、直接的にコミュニティ・スポーツを中心とするスポーツ振興政策とは目的の異なる取り組みである。しかし、そのプログラムやシステムを分析する中で、スポーツ振興へのキーワードとなる点がいくつか見受けられた。

そこで結章では、本事業の分析を踏まえて、小学校へのプログラムの普及、指導者の問題、包括的なスポーツネットワークの構築という3点から、今後のスポーツ振興政策に向けての提言をした。特に、地方自治体、各競技団体、地域、家庭などによる包括的なネットワークを構築することは、今後の日本のスポーツが発展するための支えになるものと考えられる。

本事業が、競技スポーツだけでなく、コミュニティ・スポーツを中心としたスポーツ振興政策という面においても、始動集団としての役割を果たし、スポーツ界全体の底上げにつながることを期待している。